

日本飼養標準・肉用牛(2022年版)



A4判 304ページ、養分要求量算出プログラムDL付

価格:4,400円(税込)

※送料は実費ご負担願います。

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 編

○主な内容

「日本飼養標準・肉用牛」は、前回改訂された2008年版以降、国内外での新たな研究成果が得られ、畜産物需要の拡大に対応するため増頭・増産、牛肉の輸出拡大を反映した肉用牛の新たな飼養管理システムが模索されています。また、輸入飼料価格の高騰に伴い、飼料自給率恒常への取り組みが一層求められています。

今般、これらの情勢の変化に対応するため、本書を14年振りに改訂しました。肉用牛経営者や支援・指導者必携の1冊です。

序章 飼養標準改訂の基本方針および本飼養標準の構成

1章 飼養標準の使い方と注意すべき事項

2章 栄養素の単位と要求量

2.1乾物 2.2エネルギー 2.3蛋白質 2.4無機物 2.5ビタミン 2.6 2章参考文献

3章 養分要求量(I)

3.1雌牛 3.2肥育牛 (3.2.1肉用牛、3.2.2乳用種、3.2.3交雑種)

4章 養分要求量(II)

4.1水分要求量 4.2無機物要求量 4.3 4章参考文献

5章 養分要求量に影響する要因と飼養上注意すべき事項

5.1体構成が養分要求量に及ぼす影響 5.2肉用牛の標準的発育 5.3哺育期の飼養

5.4育成期の飼養 5.5繁殖雌牛の飼養 5.6種雄牛の飼養 5.7肉用種の飼養

5.8乳用種の飼養 5.9交雑種の飼養 5.10肉用牛の品種と養分要求量

5.11放牧期の養分要求量 5.12環境条件(暑熱・寒冷)が養分要求量に及ぼす影響

5.13管理方式の差異が養分要求量に及ぼす影響 5.14 5章参考文献

6章 飼料給与上注意すべき事項

6.1飼料の加工と飼料効率 6.2飼料中の繊維含量 6.3飼料中の蛋白質の利用性および

非蛋白質態窒素化合物の給与 6.4飼料と肉質の関係 6.5地域飼料資源の利用

6.6ふん尿量、環境負荷物質排せつ量の低減化と栄養管理

6.7安全な畜産物生産と飼料添加物 6.8代謝・栄養障害 6.9 6章参考文献

7章 養分要求量の算定式

7.1使用記号の一覧 7.2雌牛の育成に要する養分量 7.3成雌牛の維持に要する養分量

7.4妊娠末期2ヵ月に維持に加える養分量 7.5授乳中の維持に加える養分量

7.6種雄牛の育成時における養分給与量 7.7種雄牛の維持における養分給与量

7.8肉用種去勢牛の肥育に要する養分量 7.9肉用種雌牛の肥育に要する養分量

7.10乳用種去勢牛の育成・肥育に要する養分量 7.11交雑種去勢牛の肥育に要する養分量

7.12 7章参考文献

参考資料1 和牛の発育値 参考資料2 飼料成分表 参考資料3 濃厚飼料のコバルト含量

参考資料4 飼料中のβ-カロテンおよびα-トコフェロール含量

申込書 公益社団法人愛知県畜産協会あて(FAX 052 - 968 - 2075)

(日本飼養標準・肉用牛【2022年版】)

申込部数 : 部

注文年月日 : 年 月 日

ご注文者

住所 : 〒 -

氏名または団体名等 : _____

【団体の場合】ご担当者 : _____

TEL : _____ FAX : _____

E-mail : _____

通信欄

Blank box for communication details.